

観光振興による地域創生に向けた人材育成事業

# 大学・地域・企業 つながり通信

広島市立大学COC+ニュースレター

vol.003

2016.07

アニメーションで  
「ミッション」を  
分かりやすく表現

## COC+ホームページを ご覧ください

広島市立大学のホームページから  
入れます

COC+の事業を紹介するホームページを公開しています。トップページには、このCOC+のエッセンスをシンプルに分かりやすく示したアニメーションを配し、事業の主役となる学生の皆さんにとって親しみの持てるデザインを目指しました。また、「ピックアップ」には様々な活動情報をアップツウデイトに掲載していきます。そのほか、各種のお知らせやニュースレター、活動報告などもブログ機能により、随時、写真とともに盛り込んでいきます。

今後とも内容を充実させて、COC+事業協働機関の皆さんをはじめ多くの地域の皆さんに、気軽に繰り返し訪問していただけるメディアを目指します。

COC+活動の  
「今」を  
どんどん掲載します

皆さんからの  
情報提供も  
お待ちしております

### 情報提供・お問い合わせ

情報の提供をいただく場合や、  
お問い合わせは、  
ホームページ末尾の「お問合せ」、  
または 広島市立大学社会連携センター  
[shakai@office.hiroshima-cu.ac.jp](mailto:shakai@office.hiroshima-cu.ac.jp)  
までご連絡ください。



COC+について

COC+はセンター・オブ・コミュニティの略称。国(国)の振興政策による地方創生推進事業(COC+)で、地(地)への人の集積を目的に、大学・自治体・企業等が連携して、地域に定住し、貢献していく人材を育成する取組への文部科学省補助事業です。

取り組み  
activity



ミッション  
MISSION

メンバー  
MEMBER

運営者様へ  
プライバシーポリシー

## Area25の全ての市町を訪ね、最新の観光施策の動向を調査



安芸太田町で観光の状況を聞く佐藤特任教授（右）



### 新カリキュラム「広島観光学」

COC+事業の柱として、地域志向型教育カリキュラムの充実を図ることがあります。その改編の先陣として、広島市立大学が、新しく、今年度の後期日程から開講する「広島観光学」の準備が進んでいます。

この科目は、1・2年生を対象にした全学共通系科目。観光の効果や、支える仕組みなどの基礎知識のほか、地域の様々な観光の取組や工夫について紹介し、観

光が地域の活性化に果たす役割を学修するものです。

この準備のため、担当する佐藤俊雄特任教授が、協働協議会の25の自治体のすべてを訪問し、ヒアリングや現場の調査を行っています。学生には、地域観光の最も新しい情報を織り込んだ講座を提供します。この科目は、来年度以降に開講する、地域課題演習や地域実践演習へのステップともなります。



## 「観光」の範囲は広い

### COC+事業で対象とする観光のイメージ

#### 狭義の観光

#### 観光客対象の取組

名所・名物・名行事  
観る・遊ぶ・食べる・泊まる・買う

#### 広義の観光

#### 観光資源の掘り起こし・活用

ニューツーリズムや  
来訪者交流の促進

#### 地域の魅力化・活性化

#### 歴史・風土・自然・ 文化・民俗・産業

地域資源を活かした  
まちづくり

#### 観光の振興

このCOC+事業は、観光振興をテーマの一つにしています。「観光」をどのような概念として整理するかは、この事業の対象範囲にも関係してきます。これを考えるにあたって、いくつかの拠り所を右ページにご紹介します。これをご覧になって分かるように、観光は、人の行動や対象等において、非常に広い概念で捉えられていることが分かります。

このCOC+事業においても、観光を、通常イメージする狭義の事象だけでなく、広い意味でのツーリズムや、地域の魅力づくりなどへも視野を広げて、地域での演習や教育プログラムなどに取組む必要があります。そのことによって、参加の自治体や企業も協働・協力していただく分野が広がるものと思われれます。

## 地元で育てた人材を大切にしたい 大学と企業の連携を

広島経済同友会筆頭代表幹事 森信秀樹



私たちは、「輝け!広島」というテーマを掲げて活動しています。それには2つの意味があります。まず、広島が自立しましょうということです。どこかに依りかかるのではなく、自らの脚で立って動く。次に、得たものはこの地域で回していこう、外には出さない、ということです。経済も、そして人材も。そのような仕組みをつくりませんか、と呼びかけています。

### 行動する経済同友会

この自立と循環の運動の中で、例えばJ Aにも協力を願って、広島農業の活性化にも取り組んでいます。「地消・地産」、「食べるので、作ってよ」ということで、県産野菜の市場占有率12%を、なんとか引き上げたいと頑張っています。メンバー企業の中には、社員食堂で地元野菜の定食を提供するところもありますし、同友会の会合の料理は広島産の食材を使ってもらっています。私たちはそのように「言う、と同時にやる」をモットーにしています。

2000年の国勢調査で広島県の人口が

初めて減少に転じました。驚いた私は、委員会での調査提言を行い、県と連携協定を結び一緒に、東京や大阪でU I J ターンのキャンペーンを行いました。それが現在の、県と同友会の交流・定住事業に結びついていると思います。

関西の大学にもアプローチしました。広島から関西の大学に入学すると、就職時にはその半分も広島に帰って来ていないという実態があったからです。県と立命館、同志社など4大学が協定を結んで、広島から出向いて行って学内で企業の説明会が開けるようになりました。

### キャンパスにとどまっている時代ではない

その一方で、広島大学の学生にもっと目を向けようと、地元の大学との連携も進めています。手始めとして、昨年9月に広島修道大学と連携協定を締結しました。人口回復委員会のメンバーと修大生が議論する中で、学生が広島に就職しないひとつの理由として、就職ナビに地元企業が登録されていない、という意見がありました。さっそく就職ナビの同友会版ポータルをつくらうと、準備しているところです。県内各地の会員企業を学生に訪ねてもらおうとバスツアーも実施しています。1・2年生の見学で出会って、3年でインターンシップ、その後の就職に結びつけばと思います。我々も

会社の存在を、もっと意識してもらおう努力が必要です。

広島地域活性化委員会では、中山間地で活躍している人の意見を聞き、学生と一緒に学びながら、何らかの提言に反映させようとしています。

また、広島市中区のタカノ橋商店街では、国際会議で来広した人々へのユニークメニューを開催しました。広島市立大学の国際学部や芸術学部の協力で、街の中での素晴らしいもてなしの夕べが実施できました。

大学もキャンパスにとどまっている時代ではないと思います。私たちと一緒に街や、地域に出ていきましょう。企業見学バスは特定の大学にとどまらず、将来は地元のいろいろな大学の学生さんが、皆で乗り合わせて実施されることを期待しています。

地元にはキラ星のごとく優良な企業があることを知っていただきたい。そして、学生さんには、ぜひ地元にとどまっていただければ、お互いにハッピーだということです。これからどんなことができるか、知恵をだしていきましょう。

(2016・3・5  
広島市立大学COC+キックオフフォーラム  
キーノートスピーチ)

広島経済同友会  
昭和31年創立。今年60周年。会員は822人。企業の経営者が利害を超えた自由な立場から、調査、研究や社会への提言などを行っている。人づくり委員会や、広島地域活性化委員会など12の部会・委員会と、県内6つの支部で活動を展開している。

■ 人の行動の面からは、国の観光政策審議会(当時)が平成7年6月の答申「今後の観光政策の基本的方針について」の中で、観光を「余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行うさまざまな活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするもの」と定義しています。

■ また、ツーリストとは何かという観点では、国連世界観光機関(UNWTO)の定義があります。「ツーリストとは、観光、レクリエーション、ビジネス、友人・知人訪問、家事・帰省などの目的で24時間以上、1年以内に戻ってくる旅行

者をいう」とされています。

■ 観光の対象や資源については、観光立国推進基本法(平成18年12月)が、観光資源の活用による地域の特性を活かした魅力ある観光地の形成のために、「史跡、名勝、天然記念物等の文化財、歴史的風土、優れた自然の風景地、良好な景観、温泉その他文化、産業等に関する観光資源の保護、育成及び開発に必要な施策を講ずる」(第13条)としています。



# 宮島 COC+教育プログラムの拠点に

## 参加大学の連携により活動を深めます



COC+事業は、大学間の協力により、教育研究や地域貢献への展開力を高めていくことが大きな柱になっています。

そして、観光の振興をテーマとした本事業にとって、宮島の重要性は言を俟たないところ。世界的に有名な観光地であり、歴史や自然、伝統文化、建築遺産、観光産業など、そのどれをとっても教育研

究の題材として貴重なものです。内外からの観光客が多く訪れている今、学生にとっても、宮島のこれまでとこれからを学習することの意味が大きい、特別な場所ともなります。

宮島ではこれまで、広島大学、広島工業大学、広島経済大学などが、様々な活動を行ってきています。広島工業大学は、10年前に町家を活用した地域環境宮島学習センター「宮島こもん」を開設し、7年前から「土曜講座」を開いて、宮島の環境やまちづくりの研究に地道に取り組んでいます。また、広島経済大学も5年前に「宮島セミナーハウス成風館」を設けて、学生や研究者が地域との交流を進めてい



ます。広島市立大学も、現在、宮島でアートプロジェクトや教育プログラムの拠点となる施設の開設準備を進めています。

COC+では、宮島を舞台に、こうした取組が、参加大学等のつながりを強めながら、さらに多彩に展開されていくことを目指しています。

## 宮島の環境とまちづくりの研究・交流に取り組む

### 広島工業大学 宮島・土曜講座2016



テーマ	講師	会場
今後の宮島観光と地域の活性化へ向けて 7月16日(土) 13:30-15:30	北野尚人 広島経済大学教授	宮島市民センター
ドイツに学ぶ 点(個別事業)も面(地域全体)も 幸せになる仕組み レジオナール 8月20日(土) 13:30-15:30	太田尚孝 福山市立大学准教授	宮島市民センター
宮島こもん開設10周年記念シンポジウム 9月24日(土) 13:30-16:30	苅谷勇雅 小山工業高等専門学校名誉教授 ほか	宮島商工会館
世界遺産20周年 常若(とこわか)の宮島をめざして 10月22日(土) 13:30-15:30	後藤研一 宮島ネイチャー構想推進協議会	宮島こもん (広島工業大学 地域環境宮島学習センター)
フランスに学ぶ 街並みを支える集合住宅の管理 11月26日(土) 13:30-15:30	関川華 岡山大学大学院講師	宮島こもん (広島工業大学 地域環境宮島学習センター)
出雲大社・神門通りの歩行環境づくり ほか 12月24日(土) 13:30-16:00	福井のり子 (株)バイタルード ほか	宮島市民センター

問 広島工業大学地域連携推進室 TEL 082-921-4222

## 事業協働機関

(大学等9校) 広島市立大学、広島大学、尾道市立大学、広島経済大学、広島工業大学、広島国際大学、広島修道大学、安田女子大学、広島商船高等専門学校  
(自治体25市町) 広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町、大崎上島町、世羅町、岩国市、柳井市、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町  
(経済団体・企業・NPO法人32機関) 中国経済連合会、広島商工会議所、広島経済同友会、広島県経営者協会  
オタフクソース(株)、(一社)尾道観光協会、呉信用金庫、(株)グリーンヒルホテル尾道、(公財)コミュニティ未来創造基金ひろしま、山陽工業(株)尾道国際ホテル、(株)中国新聞社、西中国山地観光施設等連絡協議会、日工(株)、(株)ハイエレコン、(公財)広島観光コンベンションビューロー、(株)広島銀行、広島市信用組合、(公財)広島市文化財団、広島信用金庫、広島電鉄(株)、(株)広島東洋カーブ、広島日野自動車(株)、(公財)広島平和文化センター、(株)福屋、(株)プリンスホテル グランドプリンスホテル広島、(株)ホテルグランヴィア広島、(株)ホライズン・ホテルズ ANAクラウンプラザホテル広島、マツダ(株)、(株)もみじ銀行、(株)山本屋、特定非営利活動法人キャリアプロジェクト広島、特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター (企業等・NPO:五十音順)

**COC+とは?** COCはセンター・オブ・コミュニティの略称。「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、地方への人の集積を目的に、大学・自治体・企業等が協働して、地域に定住し、貢献していく人材を育成する取組への文部科学省の補助事業。

【編集発行】 広島市立大学社会連携センター COC+事業推進事務局  
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号  
TEL 082-830-1764 FAX 082-830-1555

<http://www.cocplus-hiroshima-cu.com/>